

PR パーソンのためのプレスリリース専用エディター PR Editor (β版) 先行体験モニターの募集開始

- PR TIMES 利用ユーザーを対象に先行モニターを募集受付。締め切り：12/10 (日) -



株式会社 PR TIMES（東京都港区、代表取締役：山口拓己、東証プライム：3922）は、2023年12月5日（火）より、プレスリリース専用エディター「PR Editor(β版)」の先行モニター募集の受付を開始いたしました。「PR Editor(β版)」の一般公開は12月中旬を予定しており、先行モニターの対象者は、現在「PR TIMES」をご利用いただいているユーザーに限定しています(*1)。

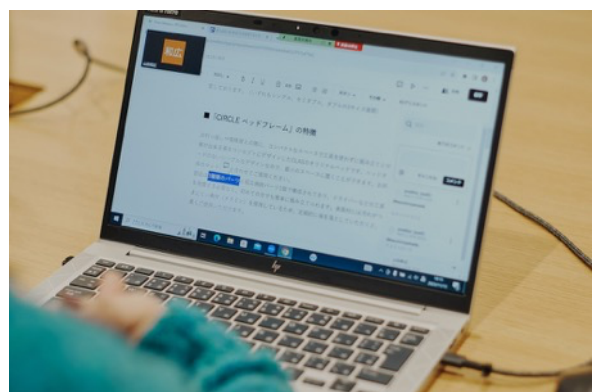
(*1) 「PR TIMES」にご登録いただいているメールアドレスへ先行モニターご参加のご案内をお送りいたします。

PR パーソンの「こんなのあったらいいな」を実現した、「誰でも無償」のプレスリリース専用エディター

「PR Editor」は、プレスリリース配信サービス「PR TIMES」でリニューアル予定のプレスリリースエディターの機能を切り出した、Web ブラウザ上で「誰でも無償で使える」プレスリリース専用のエディターツールです。

「PR Editor」の開発にあたっては、「PR TIMES」のリニューアルに伴い、多くの広報担当者や PR パーソン、経営者などプレスリリース作成に携わる方々との対話を続けてきており、数多くの新しい機能や UI（ユーザーインターフェース）を検討してきました。プレスリリースを書き慣れていない、初めて執筆する方にはどんな機能や UI が求められるか、一方でプレスリリースを月に何本も配信される方はどのような作業が煩わしいと感じているのかなど、そうした多種多様な PR パーソンの「こんなのあったらいいな」を実現したのが PR Editor です。

更に「PR Editor」は、PR TIMES に追加しようとしている検討中の新機能をいち早く搭載し、様々な方に利用してもらいフィードバックをいただくための「PR TIMES の新たな実験場」として



11月上旬に実施した「PR Editor」先行体験会の様子

も機能します。先行してご利用いただいたみなさまの声をお聞きすることで、その機能を PR TIMES に実装する際に、より高いクオリティでサービス提供できることを目指しています。

プレスリリース作成に特化した独自機能

「PR Editor」にはプレスリリース作成に特化した独自機能を搭載しています。今後ご利用いただいた皆さまのご意見を元にさらにアップデートを行う予定ですが、現時点では以下のような機能をご利用いただけます。

「テンプレート機能」

テーマに適したフォーマットで、伝わるプレスリリースに。

たくさんのプレスリリース用テンプレートから目的にあったものを選んでリリースを簡単に作成できる機能です。商品発売やイベントの告知から、調査リリースや年当初感といった専門性の高いものまで、約 100 近くの幅広いテンプレートを無償でご利用いただけます。



テンプレート機能の画面イメージ

「AI アシスタント機能」

タイトルやサブタイトルを、あなたに提案。

「PR Editor」独自に開発したプレスリリース用の AI システムに基づいて、魅力的なタイトルや見出しを AI が提案してくれる機能です。今後は企業情報や商品情報など過去にインプットされた情報をもとに、アカウントごとにカスタマイズされた文章を提案する追加機能も予定しています。



AI アシスタント機能の画面イメージ

「コメント・共有機能」

チーム内での共同編集・確認が、スムーズに。

ブラウザ上で編集することで、チーム内でプレスリリースの共同編集やコメントのやり取りが可能になる機能です。リアルタイムに編集して出力するまでのアウトプットが可能になり、チームの作業効率が格段にアップします。



コメント・共有機能の画面イメージ

「定形情報呼び出し機能」

お決まりの情報を、ボタンひとつで呼び出し。

リリース文末に入れる会社情報など、いつも使う情報は、あらかじめ登録しておくことでボタンひとつで文中に追加でき、手入力でのミスを防ぐことができ、作業工程も短縮できます。



定形情報呼び出し機能の画面イメージ

作成したプレスリリースは「PR TIMES」へそのまま移行可能

「PR Editor」で作成したプレスリリースは、PDF や WORD などのファイル形式に書き出すことも可能です。さらに、「PR TIMES」と直接互換性のある独自のファイル形式 (xxxx.prt) に書き出すことができ、「PR Editor」で作成したレイアウトをそのまま崩すことなく「PR TIMES」へインポートすることが可能(*2)になります。

(*2)12月中旬に予定している「PR TIMES」のリニューアル実施以降可能となります。



PR Editor β版の利用方法と今後

本日12月5日(火)より、「PR TIMES」をご利用いただいている方々へ「PR Editor」β版の先行モニターを募集します。当社が「PR TIMES」の全ユーザーへご案内するメールに記載する登録ページよりβ版に登録が可能で、登録後ご利用可能となります。

日頃より「PR TIMES」を活用いただく方々にお試しいただき、その使用感や改善ポイントをフィードバックいただきたいと思っています。いただいたフィードバックは、12月中旬予定の「PR TIMES」リニューアルと「PR Editor」一般公開に向けて対応、あるいは今後のアップデートの参考にさせていただきます。

<PR Editor β版先行モニター参加にあたり注意点>

- ・参加者は自らの責任で先行モニターに参加するものとします。
- ・期間中は、予告なく緊急メンテナンスを実施する場合があります。
- ・期間中は、予告なく仕様やレイアウトを変更する場合があります。
- ・先行モニターを予告なく中止する場合があります。予めご了承ください。
- ・先行モニターにて提供されているサービス内容は、正式リリース版と内容が異なる場合があります。
- ・先行モニター期間中は、PR TIMES サポートデスクにおいて PR Editor の問い合わせについては受け付けておりません。不具合や分かりづらい箇所がございましたら、後日送付させていただくアンケートメールにてご意見を頂戴できますと幸いです。
- ・先行モニター期間中は、社外秘などの機密性の高い情報の入力はお控えください
- ・先行モニター期間中に作成したデータは、予告なく削除されることがあります。
- ・動作や表示等の予期せぬ不具合が発生する場合があります。
- ・ハードウェア等に何らかの不具合や損害が発生した場合でも、当社は法令に違反しない範囲において補償・賠償を行わないものとします。
- ・先行モニターの体験およびアンケートに積極的なご協力をお願いします。

PR TIMES リニューアルプロジェクトについて

PR TIMES は、プレスリリース配信サービス「PR TIMES」の大型リニューアルプロジェクトを実施し、2023年冬を皮切りに「PR TIMES」の管理画面やユーザー画面をはじめとしたUI(ユーザーインターフェース)を全面的に刷新すると共に、複数の新機能を導入していきます。本プロジェクトは「透明性」をキーワードに、一般的にオープンにされないサービス開発のプロセスを包み隠さずオープンに公開していきます。また、それら開発を当社だけで推し進めるのではなく、「PR TIMES」をご利用の企業・団体・個人事業主やメディア関係者、専門家、生活者といった多種多様なステークホルダーの皆様との対話を通じて、共に考えながら形にしていきます。リニューアルのプロセスは、PR TIMES STORY で連載企画「PR TIMES Renewal Journal」としてオープンに発信しています。

プロジェクトオーナーでもある代表山口や、メンバ



2023年7月19日に開催した「PR Tea TIMES」の様子

ーの思いや背景を伝えるインタビューや14名のゲストに新機能を試していただいたユーザーイベント「PR Tea TIMES」のレポートなど過去発信の「PR TIMES RENEWAL JOURNAL」はこちらからご覧いただけます。

<https://prtimes.jp/story/tag/PRTIMES%E5%A4%A7%E5%9E%8B%E3%83%AA%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%A2%E3%83%AB>

株式会社 PR TIMES について

PR TIMES (読み：ピーアールタイムズ) は、「**行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ**」をミッションに掲げ、「行動者」のポジティブな情報がニュースの中心となり、個人を勇気づけ前向きにする社会の実現に挑んでいます。私たちは人の行動や頑張りの結晶を、その想いを紡いで発表するのがプレスリリースだと考え、企業規模を問わず「行動者」が自ら発信できる、PRの民主化を目指して事業を展開しています。プレスリリース配信サービス「PR TIMES」の利用企業社数は8万7000社を超え、国内上場企業の55%超に利用いただいています。情報収集のため会員登録いただくメディア記者2万5000人超、サイトアクセス数は月間約9000万PV、プレスリリース件数は月間3万3000件超、累計で100万件を超えています。全国紙WEBサイト等含むパートナーメディア240媒体以上にコンテンツを掲載しています(2023年8月時点)。



他にも、ストーリーで伝える「PR TIMES STORY」、動画で伝える「PR TIMES TV」、PR活動の設計から実行まで伴走するPRパートナー事業、アート特化型のPRプラットフォーム「MARPH」、[isuta]「STRAIGHT PRESS」等のニュースメディア事業で、情報発表とその伝播を支援する他、生まれた企画が発表に至るまで前進できるよう支えるタスク・プロジェクト管理ツール「Jooto」、さらに発表後のお客様対応や情報整理を円滑に行えるカスタマーサポートツール「Tayori」など、「行動者」を立体的に支える事業を運営しています。

また子会社には、スタートアップメディア「BRIDGE」を運営する株式会社 THE BRIDGE、ソフトウェア受託開発を行う株式会社 グルコース、SNSマーケティング支援の株式会社 NAVICUS があります。

【株式会社 PR TIMES 会社概要】

ミッション：行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ

会社名：株式会社 PR TIMES (東証プライム 証券コード：3922)

所在地：東京都港区赤坂1-11-44 赤坂インターシティ 8F

設立：2005年12月

代表取締役：山口 拓己

事業内容：- プレスリリース配信サービス「PR TIMES」 (<https://prtimes.jp/>) の運営
- ストーリー配信サービス「PR TIMES STORY」 (<https://prtimes.jp/story/>) の運営
- クライアントとメディアのパートナーとして広報・PR支援の実施
- 動画PRサービス「PR TIMES TV」「PR TIMES LIVE」 (<https://prtimes.jp/tv/>) の運営
- アート特化型オンラインPRプラットフォーム「MARPH」 (<https://marph.com/>) の運営
- カスタマーサポートツール「Tayori」 (<https://tayori.com/>) の運営
- タスク・プロジェクト管理ツール「Jooto」 (<https://www.jooto.com/>) の運営
- 広報PRのナレッジを届けるメディア「PR TIMES MAGAZINE」 (<https://prtimes.jp/magazine/>) の運営
- Webニュースメディア運営、等

URL：<https://prtimes.co.jp/>

PR TIMES